

土砂災害に思うこと

岩沼西中学校

三年

佐藤

友哉

毎年、全国各地では土砂災害や、梅雨から秋にかけて発生する台風や豪雨などによる風水害が多く発生しています。

今年も早く梅雨入りし、梅雨明けは平年よりも遅かった。梅雨明けは平年よりも一ヶ月も早く、梅雨の期間はなんと二週間という短さでした。六月に梅雨入りして、夏休みに入る前か、夏休み中に梅雨が明け、ものだと思っていたので、正直驚きました。

「梅雨って感じがしなかったね。どこかで水不足になったり、豪雨災害とか起きたり、異常気象だと何が起こるか分からないから怖いよね。だからこそ、ハザードマップを見て家族で情報を共有して備えることも大事だよ」と母に言われました。

心配性の母は、出勤する前に天気予報や道路情報、高速道路通行止め、列車の運行情報などを確認してから出勤していました。特に

雨予報の時は、さまざまな地域の河川の状況まで調べていたのを覚えています。当時は、なぜ住んでいる地域以外のことまでそんなに調べているのだろうと疑問でしたが、土砂災害警戒情報発表や、震度四以上の地震が発生した時に出勤しなければならなかったからだと、自分が成長してから分かりました。

記憶に新しい台風といえば、二〇一九年十月に発生した、令和元年東日本台風です。

土砂災害は主に地すべり、土石流、かけ崩れ

の3種類がありますが、この台風では土砂災害が九百六十二箇所が発生したそうです。そのうち、宮城県内では約三百箇所を占める被害があったようです。我が家は、土砂災害警戒区域ではなかったのですが、車のみ移動させて垂直避難をしました。テレビ、ラジオ、スマートフォンから聞こえて来るニュース速報や警報音が鳴り響いたこと、今でも鮮明に覚えています。県内各地で過去最大雨量を更新した家の前の道路も川のような状態になりました。

□いつ・どこに・どのように□避難をするのか、一人ひとりがあるがじめ決めておく□防災行動計画を立てました。

自宅にいる場合は、何となく自分が取るべき行動は把握しているつもりですが、災害は自宅にいる時に起こるとは限りません。学校や職場、よく行く出先についても、調べておく必要があると考えます。

母に教えてもらった気象庁のキキワル（危険度分布）。大雨による土砂災害の危険度分布は□土砂キキワル□、他にも□浸水キキワル□、□洪水キキワル□があり、災害の危機がどこでどのレベルで迫っているのかを知ることができるとです。

災害時は様々な情報が発信されますが、自ら情報を取りに行くことも大切です。また、情報弱者に伝達・共有することも命を守るためには必要不可欠だと学びました。

これらのことから、避難が必要な際には、身近な人にも声をかけ、いざという時には命

四十五センチ位侵水したものの、家屋は道路からの高低差が八十センチ程度あったので、床下侵水等の被害からは免れました。

今年の夏は、上空にあるチベット高気圧が平年より北に張り出し、太平洋高気圧が例年よりも北に偏ることによって、記録的な猛暑が心配されます。また、偏西風の蛇行により、東北・北海道・北陸地域で大雨が頻発し、災害が多発しています。今後、猛暑の影響で海水温が上がり、例年よりも台風が発達し、強

い勢力の台風が上陸するかもしれません。

災害が起きてからでは、焦りから正常な判断が出来ず、冷静な行動が出来なくなると思います。いざというとき、安全に避難行動がとれるよう、普段から自分が住む地域の災害リスクや避難場所、安全な避難経路などを、ハザードマップで確認しておく必要があるでしょう。

学校の授業でも、Qマイ・タイムラインという、台風が近づいている時や大雨の時に

を守る行動が素早く取れるようにしたいと思
います。